

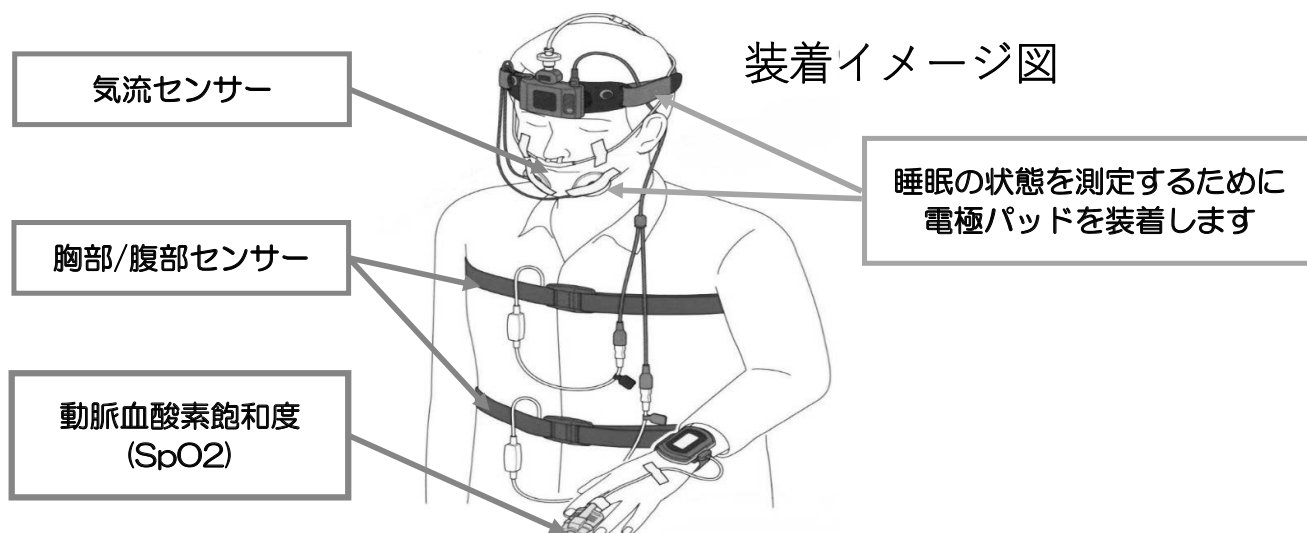
【終夜睡眠ポリグラフィー（PSG）検査とは？】

主任検査技師

ひらさわ ひろし
平澤 博

どのような検査ですか？

この検査は、主に睡眠時無呼吸症候群（SAS）を診断するために行われます。睡眠中の検査のため、入院の必要がありますが、SASの診断をする上でとても大切な検査です。体にさまざまなセンサーをつけて、眠っている間の睡眠と呼吸の状態を調べます。少し煩わしいと感じるかもしれませんが、痛みを伴う検査ではありませんので安心して検査を受けてください。



なにがわかりますか？

睡眠状態

脳波や顎の筋電図により、睡眠の深さや本人も気がつかない脳の目覚め（覚醒反応）を調べて睡眠の質を総合的に評価します。呼吸異常によって起きる睡眠障害の有無を診断します。

呼吸状態

気流センサー

鼻からの気流を測定し、無呼吸や呼吸が弱くなった状態（低呼吸）が無いかを調べます。1時間あたりの無呼吸/低呼吸の数（無呼吸低呼吸指数：AHI）を算出します。SASの重症度を診断する上で重要な指標です。

胸部/腹部センサー

胸部と腹部に巻いたバンドセンサーにより、呼吸による胸腹部の動きを調べます。これにより、空気の通り道である気道が閉じてしまうタイプ（閉塞型）と気道の閉塞なしに呼吸が停止するタイプ（中枢型）の判別が可能です。

動脈血酸素飽和度 (SpO2)

血液中の酸素濃度の目安を%で表示します。呼吸換気が悪くなると、酸素濃度が下がり、体に悪影響を与えます。換気の指標となる重要な測定項目です。

診断

医師が睡眠状態と呼吸状態を総合的に評価し、SASの診断と重症度を判断します。